

ショウガ (ショウガ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
芽出し	植えつけ										収穫

品 種

在来種、三州、金時、谷中

栽培ポイント

連作障害が出やすい野菜ですから、3～4年の輪作が必要です。

熱帯の原産で高温多湿を好み、乾燥に弱いという性質を持っています。生育適温は25～28度、12度以下では生育が困難ですから、暖かいところで芽出しをしたタネショウガを、気候がよくなってから畑に植え出すようにします。

畑は肥えていて、土の粒子をこまかくするためによく耕された排水のよい場所を選びます。根の発達があまり活発ではないので、多湿の土のほうがよいのですが、過湿では根が腐りますから、排水のよい土で、わら、刈り草、ビニールなどのマルチングをするのがよいでしょう。

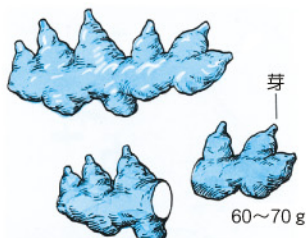
栽培型としては、普通の栽培法の新ショウガ、未熟な根を利用する葉ショウガ、軟化栽培の筆ショウガがあります。新ショウガは普通の2～3倍の密植とし、3～4本に分株したら収穫するものですが、普通栽培の途中で利用することもできます。筆ショウガは、高温多湿の遮光下で作られますが、ビニールなどを利用して遮光すれば作ることもできます。

栄 養

栄養価はほとんどありませんが、さわやかな辛みは食欲をそそる薬味として役立っているほか、民間薬としても重要なものです。

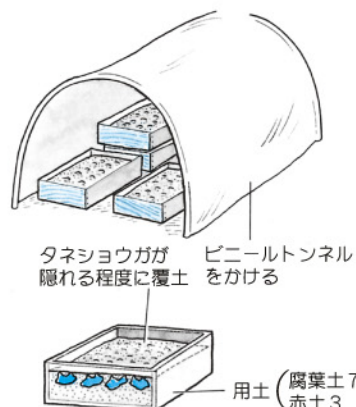
1 タネショウガ

タネショウガは4月ごろに種苗店などで入手する。肉つきのよい、病気のないものを選び、芽を三つぐらいずつつけて、60～70 gに割る。



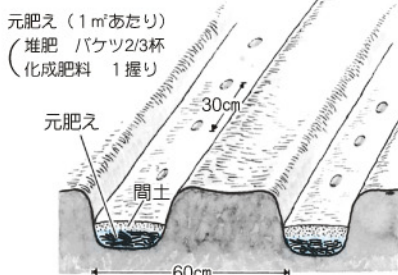
2 芽出し

ショウガは発芽に時間がかかり、そのまま畑に植えたのでは発芽までに2ヵ月近くもかかるので、箱植えにして芽出しをしてから植える。



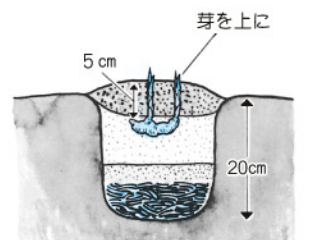
3 畑の準備

植えつけの2週間ぐらい前に、1㎡あたり1握りの苦土石灰を畑にまいてすき込んでおき、その1週間後に元肥を施して畝を作る。



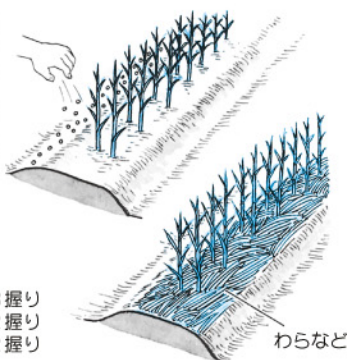
4 植えつけ

5月中旬ごろ、タネショウガの芽が7～8 cm伸びたら、準備した畝に植えつける。深植えにしないように気をつける。



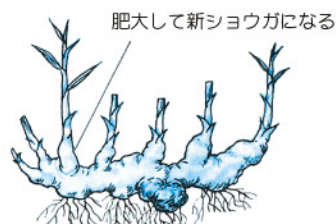
5 追肥・土寄せ・敷きわら

植えつけ10日後から2週間おきに3回追肥し、同時に除草して軽く土寄せをする。乾燥に弱いので、梅雨明けに株元にわら、枯れ草などを敷いてやる。



6 収 穫

夏には新ショウガができ、秋には大きく育って根ショウガとして収穫できる。夏ごろから葉ショウガとして少しずつ利用してもよい。



主な病害虫

- ◆病気 立ち枯れ病、白星病
- ◆害虫 アワノメイガ、ネキリムシ、ナメクジ、ネコブセンチュウ